

“災害と備え”を自分ごとにする

# 図書館向け減災訓練プログラム



東日本大震災、熊本地震等では幸いにも図書館で大きな人的被害はなかったものの、日頃の安全管理・対策、その後の復旧に大きな教訓が示唆されました。大規模震災時にあなたの図書館はどのような状況になるのでしょうか？

- ・スタッフ、不特定多数の来館者の安全確認はどうやって？
- ・どこに避難するの？
- ・翌日以降の対応は？

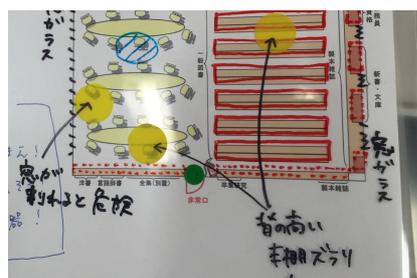
図書館内で負傷者を出さないだけでなく、早期再開までを視野に入れた“図書館に特化した”二つの減災訓練プログラムです。

「宮城県図書館における東日本大震災の被災・復旧の記録」より

## 基本編 my図書館DIG Disaster Imagination game

まず、自図書館の災害時のイメージをもちたい方  
自図書館の強み・弱みを分析し、“見える化”したい方

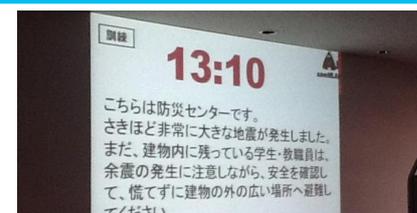
- 参加者が各自の図書館の配置図を持ち寄り、ファシリテーターの進行に沿って、災害時におきるいろいろな事象をマップに書き込んでいき、自分の図書館オリジナルの減災マップをつくるワークショップです。
- ディスカッションしながらワークを進めていくことで、具体的にイメージを醸成していきます。
- ワークショップで作成したマップは各自持ち帰ることができます。上司・同僚等とマップを元に共通のイメージを持ち、必要な対応を一緒に考える素材になります。



## 発展編 図書館震災シミュレーション saveMLAKメソッド

震災時に図書館で起きうる事象を疑似体験したい方  
自図書館の防災・避難計画等を見直したい方

- 参加者が館長、職員、利用者等になりきり、図書館内でおきる様々な状況に対応していくロールプレイングゲームです。
- 次々に付与される状況は、実際の事柄に基づいており、リアリティあふれる訓練になります。
- すでに防災・避難計画等がある場合は、シミュレーション訓練でその検証をすることにより、実践的な対応が可能となります。



### 導入事例

専門図書館協議会 (H28.7、H25.9)、図書館地区別(北日本)研修 ワークショップ (H25.11)、私立大学図書館協会 東地区部会研究部研修委員会 (H24.11)、国立大学図書館協会 近畿地区 (H29.9 予定)

図書館向け減災訓練プログラムは、長年全国の自治体の危機管理演習をサポートしてきた減災アトリエ（主宰 鈴木光 防災図上訓練指導員、工学院大学客員研究員）と全国の図書館コンサルティングを手掛けるアカデミック・リソース・ガイド株式会社が共同開発した図書館系施設に特化した防災訓練プログラムです。基本編・発展編のどちらからでも、1プログラムだけでも開催可能です。

- 所要時間：2～3時間（目的等によって異なります。ご相談ください）
- 対象：全ての図書館関係者、規模や種類の異なる図書館が混合でも開催できます。
- 費用：5万円～（規模、目的等によって異なります。ご相談ください）

減災ラボ

お問い合わせ 一般社団法人減災ラボ info@gensai-lab.com <https://www.gensai-lab.com/>